

報告第 57 号

第三次小城市子どもの読書活動推進計画の策定について

このことについて、別紙のとおり報告する。

令和 3 年 3 月 25 日

小城市教育委員会 教育長 大野 敬一郎

報告理由

第三次小城市子どもの読書活動推進計画を策定したため報告する。

第三次

小城市子どもの読書活動推進計画

「子どもの笑顔が輝く」小城市



令和3年3月

小城市教育委員会

構成（目次）

第1章	第三次小城市子どもの読書活動推進計画の策定にあたって	1
第2章	第二次計画における取組状況と成果	2
1	第二次計画における視点	
2	子どもの読書活動推進のための方策	
	（1）家庭における子どもの読書活動の推進	
	（2）地域における子どもの読書活動の推進	
	（3）学校等における読書活動の推進	
	（4）民間団体の活動に対する支援	
	（5）普及啓発活動	
第3章	アンケート結果から見た小城市の子どもの読書の現状と課題（分析）	8
1	小学生・中学生のアンケート結果	
2	保護者のアンケート結果	
第4章	第三次小城市子どもの読書活動推進の基本方針	15
1	基本方針	
2	計画の目指すもの	
3	計画の期間	
第5章	子どもの読書活動の推進のための具体的方策	17
1	家庭における子どもの読書活動の推進	
2	地域における子どもの読書活動の推進	
3	学校等における子どもの読書活動の推進	
4	民間団体の活動に対する支援	
5	普及啓発活動	
第6章	推進計画の進捗管理	21

第1章 第三次小城市子どもの読書活動推進計画の策定にあたって

平成22年4月に「第一次小城市子どもの読書活動推進計画」が策定されました。平成27年7月に「第二次小城市子どもの読書活動推進計画」を策定、さらに5年が経過し、その間小城市では推進計画の実現にむけて様々な取組を行いました。期間中の平成30年には三日月館が「子どもの読書活動優秀実践図書館」文部科学大臣表彰を受けるなど成果をあげてきたところです。

第三次小城市子どもの読書推進計画は、平成29年策定の「小城市教育振興基本計画」、平成30年策定の「小城市生涯学習推進基本計画」、同年策定の国の「第四次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、令和元年策定の「第2次佐賀県子ども読書活動推進計画」などこれらの上位計画を指針とし、これまでの成果と問題点を踏まえ令和3年3月に策定しました。

第2章 第二次計画における取組状況と成果

1 第二次計画における視点

小城市教育委員会では小城市総合計画の将来像である「薫風(くんぷう)新都(しんと)」みんなでつくる・笑顔あふれる小城市の実現を目指す小城市教育振興基本計画の基本目標は「城(じょう)創(そう)伝心(でんしん)」です。「城創伝心」とは小城の歴史と伝統を受け継ぎ文化を創造する豊かな心を育み後世へ伝える人づくりをめざしています。この城創伝心の重点目標のひとつとして《読書をとおした豊かな感性と広い教養の育成》を掲げており、第二次子どもの読書推進計画では、《読書をとおした豊かな感性と広い教養の育成を行う環境づくり》をめざして子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

しかし、子どもの読書習慣の形成に向けては、発達段階ごとに家庭、地域、学校が連携した社会全体での取り組みが大切であり、読書活動は短期間で結果がでるものではないため、さらに継続していくことが求められます。

【基本目標】

《読書をとおした豊かな感性と広い教養の育成を行う環境づくり》

【施策の体系】

この計画は、次の5つの項目で取り組んできました。

- (1) 家庭における子どもの読書活動の推進
- (2) 地域における子どもの読書活動の推進
- (3) 学校等における読書活動の推進
- (4) 民間団体の活動に対する支援
- (5) 普及啓発活動

2 子どもの読書活動推進のための方策

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

【取組状況と成果】

① にこにこルーム

にこにこルーム（ブックスタート関連事業）は平成23年度から行っています。乳児検診の市内3会場でおはなしボランティアグループと協働で行いました。乳児とその家族に読み聞かせの体験をしてもらいました。小城市に住まれた年月が浅い人も多く、社会資源である図書館のPRにも繋がっています。

② ブックリサイクル

平成31（令和元）年度は、各館・分室を合わせて4回実施し、年間1,125名の参加者があり、来館促進に繋がりました。

③ 自動車図書館「本丸くん」

幼稚園・保育園・小学校をはじめ市内27箇所のステーションを巡回しました。「本丸オリエンテーション」により小学1年生児童に図書館を身近に感じてもらい読書活動の定着の一助となっています。また、保育園等へは「緑陰おはなし会」を通じて絵本を親しむ一助となっています。

④ 読み聞かせ会

親子で参加できる読み聞かせ会として月に1回のおはなし会や各館での大きなおはなし会を行い、家族での参加がありました。家族で同じお話を楽しむことは、親子での読書の定着の一助となっています。

⑤ 「家読（うちどく）」

市内の小学校5校で親子読書、リレー読書、家読（うちどく）カードの配布、家読（うちどく）おすすめ本の冊子の配布など取り組まれています。

（2）地域における子どもの読書活動の推進

・小城市民図書館

【取組状況と成果】

① 情報の提供

子ども達へイベント情報や新刊だよりを配布しました。

イベントの対象学年に学校を通じて個別に配布することで、参加促進に繋がっています。

② 一日図書館職員体験

各館・各分室で小学生を対象に行いました。応募が多く、毎回抽選での参加となり、参加者は図書館を身近に感じ図書館利用に繋がっています。

③ 各施設への司書の派遣

保育園等へは「緑陰おはなし会」小・中学校へは「出張おはなし会」、児童センター「ゆうゆうおはなし会」で市民図書館の司書が各施設に出向き、おはなし会の関連本の紹介をするなど読書の楽しみ方も伝えています。

④ にこにこルーム（ブックスタート関連事業）

おはなしボランティアと協働で乳児検診の際に行いました。乳児とその家族に読み聞かせの体験を通じて、図書館の利用やおはなし会の参加に繋がっています。

⑤ 団体貸出

学校図書館との連携・協力として年1回、年度始めに市民図書館、学校図書館合同研修会を開催し、市民図書館の利用方法などの説明を行い、全ての学校で団体貸出（100冊、2カ月）の利用に繋がっています。

また、学校と、図書館システムを共用しており、調べ学習のための活用や、相互貸借での学校の本の充実の一助になっています。

⑥ おおきなおはなし会

おはなしボランティアグループと連携して夏のおはなし会、秋のおおきなおはなし会など各館で魅力あるおはなし会を行いました。

家族での参加も多く、図書館の利用に繋がっています。

⑦ 牛津分室のリニューアルオープン

牛津分室を平成28年1月に牛津公民館内にオープンしました。

⑧ 子ども向け資料の充実 児童書の蔵書数の増加

年 度 (冊)	平成 27 (2015)	平成 28 (2016)	平成 29 (2017)	平成 30 (2018)	平成 31(令和 元) (2019)
蔵書数	94,623	96,185	97,057	98,187	98,878

⑨ 市民図書館の貸出冊数に対する児童書の貸出割合の増加

年 度 (冊)	平成 27 (2015)	平成 28 (2016)	平成 29 (2017)	平成 30 (2018)	平成 31(令和 元) (2019)
児童書 貸出数	132,754	127,272	128,589	129,313	122,672
全体の 貸出数	384,728	362,797	357,171	349,614	331,038
児童書 貸出割 合(%)	34.5	35.0	36.0	36.9	37.0

⑩ 自動車図書館「本丸くん」

幼稚園・保育園・小学校へ定期的に巡回し園児、児童向けの絵本などを貸し出しています。幼稚園、保育園等では、年長さんに図書カードを作成して貸出を行っており、家族での図書館利用に繋がっています。

⑪ 除籍本の優先譲渡

小城市民図書館の除籍本のなかで絵本と紙芝居は市内の保育園、幼稚園等に優先的に配布しました。

平成31（令和元）年度は、11園に合計400冊の絵本を提供しました。

（3）学校等における読書活動の推進

・幼稚園・保育園・認定こども園等

【取組状況と成果】

① 読み聞かせの活動等

すべての幼稚園・保育園・認定こども園等で保育時間中など1日に2～3回の読み聞かせが行なわれています。また、定期的に地域の読み聞かせボランティアに来園してもらい、読み聞かせが行われています。さらに保育士等の職員に研修を行うことで、読み聞かせの大切さや楽しさを保護者へ伝える取り組みを行っています。

② 読書活動推進の取り組み

園児への貸出を実施している園が7園あり、園児が絵本や物語に親しむ機会を増やす活動に取り組み、家庭での読み聞かせに繋がっています。

・放課後児童クラブ

【取組状況と成果】

市内には18の児童クラブがあります。各施設に読書コーナーはありますが、蔵書数は少ないため、小城市民図書館の団体貸出を利用されているのが現状です。

・小学校・中学校

【取組状況と成果】

① 学校図書室の所蔵図書の充実、市民図書館との相互貸借

学校と、図書館システムで共用しており、小城市民図書館からの助言を受けるなどの連携により、学校図書室での図書の選書や環境整備に繋がっています。

② 全校一斉の読書活動

各小中学校で全校児童生徒を対象にした図書館まつりや読書週間で「読書の木」などが実施されています。親子読書カードの配付やくじ引き、スタンプラリーなど多彩な取組みが行われ、親しみやすい図書室としての利用に繋がっています。

③ 推薦図書コーナーの設置

多読者おすすめの本、教科書にのっている本を紹介するコーナーなどが設置され、体系的な読書活動の推進が行われています。

④ 読書量の目標設定

読書目標冊数を設定し、達成者を表彰したり、ゴールドカードを作成することで、読書習慣を身に着け、読書の幅を広げる取組みに繋がっています。

⑤ 学校図書室を活用した授業の実施

国語、社会などの教科や様々なテーマを設定した調べ学習が行われ、なかでは、担任や司書が授業関連の本や紙芝居の実演をして読書に興味を持たせる取組みが行われています。

⑥ 家庭・地域との連携による読書活動の推進、おはなしボランティアと連携した読み聞かせや朝の読書の実施

全ての学校で朝の読書があり、おはなしボランティアグループが読み聞かせを行っています。小城市民図書館からも出張おはなし会として学校に出向き読み聞かせを行い、おはなしをとおして本のすばらしさを伝え、興味を繋ぐ機会となっています。

⑦ 資料・施設の整備・充実

今回実施したアンケート調査によると学校蔵書基準※にもとづく学校図書室の蔵書の同基準の達成状況が小学校は75から100%以上達成が3校で前回に比べ2校増え、100%達成が5校になっています。中学校では75%以下が1校で100%以上達成が3校になりました。

※学校図書館図書基準

学校図書館の整備を図る際の目標として文部省（H5）が設定したもので、学級数に応じて必要な標準蔵書冊数を示しています。

⑧ 学校図書室の活用を推進していくための人的配置の推進

全ての学校に司書教諭、学校司書が配置され、児童生徒がいつでも学校図書館を活用できる体制を整えると共に能力向上のための研修会等も行われています。

(4) 民間団体の活動に対する支援

小城市内で活動するおはなしボランティアグループにより構成された「小城市おはなし協議会」による年2回の研修会（おはなし会の実地研修や県内図書館への視察等）実施に際し、連携・支援を行うことで構成団体の活発な活動を促進しました。

(5) 普及啓発活動

「子どもの読書の日」、「子どもの読書活動推進月間」にあわせ、親子を対象とした、大きなおはなし会などのイベントに取り組みました。

平成31（令和元）年度は、市の図書館のホームページを見やすくリニューアルし、図書館の情報を提供しました。

第3章 アンケート結果から見た小城市の子どもの読書の現状と課題（分析）

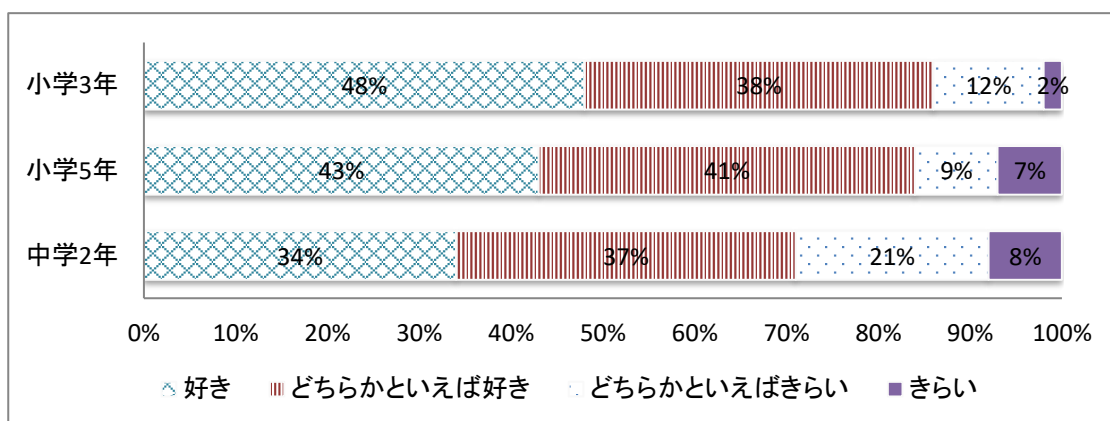
このアンケートは、第二次小城市子どもの読書活動推進計画の見直しにあたり、小城市の就学前児童、小学校低学年、小学校高学年及び中学生の読書活動の現状と課題を把握するために、市内の小学校3年生、5年生及び中学2年生を対象とし、各4校からそれぞれ1クラスを選び、保護者については、市立幼稚園、市立保育園、私立保育園から各1園の5歳児クラスを選び、実施しました。

1 小学生、中学生のアンケート結果

【本への興味】

読書の好き嫌い、インターネットや携帯電話での情報源、読み聞かせなど、子どもたちと読書との関わりについて調査しました。

質問 本を読むことが好きですか

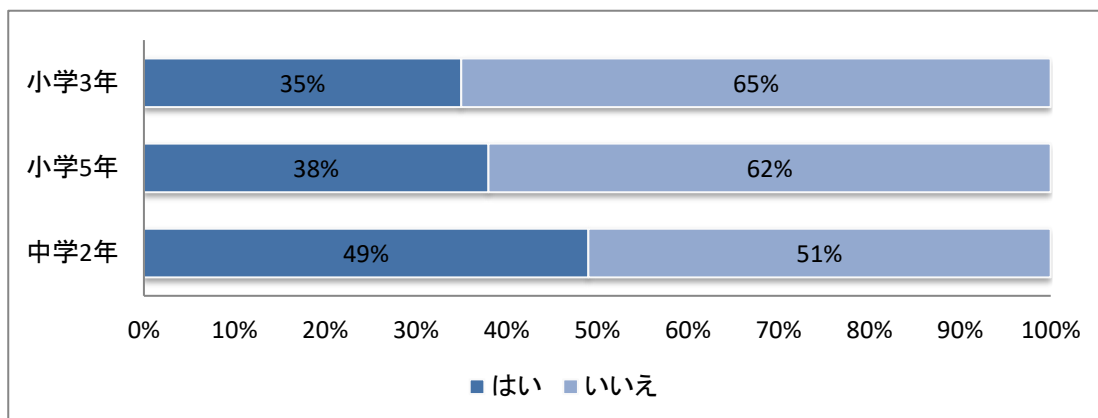


読書の好き嫌いに関する質問です。

小学3年生は、97人（86%）が、小学5年生では79人（84%）が「好き」「どちらかといえば好き」と答えています。中学2年生は、73人（71%）が「好き」「どちらかといえば好き」と答えています。一方、「読書が嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた小学3年生で16人（15%）、小学5年生15人（16%）、中学2年生では、30人（29%）です。

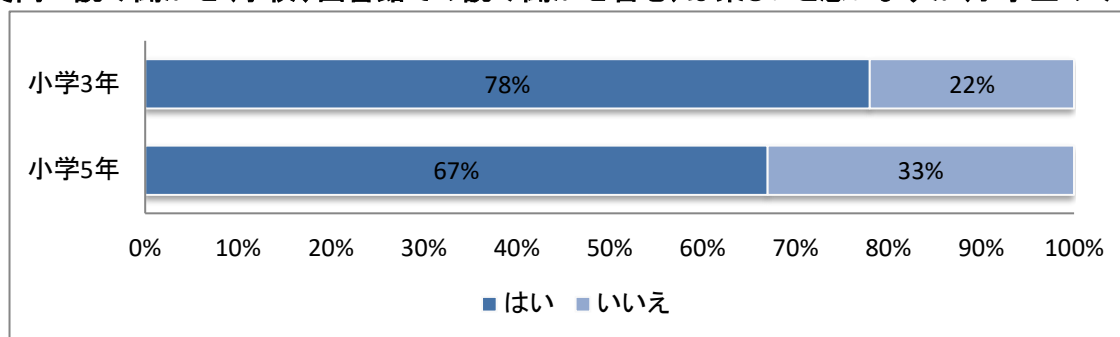
全体では、読書好きの子どもが（249人）80%で、前回に比べ2%減少しました。

質問 インターネットや携帯電話で物語やマンガなどを読みたいと思いますか



小学3年生は、38人（35%）、小学5年生は36人（38%）、中学2年生では50人（49%）が「はい」と答えています。「はい」が「いいえ」を下回っており、前回に比べネット環境で読書をしたという子どもが減少しています。

質問 読み聞かせ(学校、図書館での読み聞かせ含む)は楽しいと思いますか(小学生のみ)

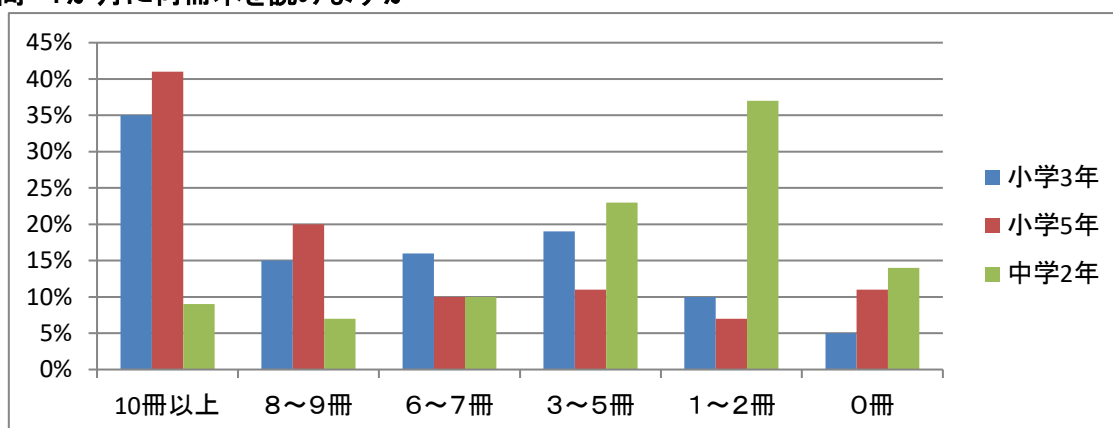


小学3年生が78%、小学5年生では67%が楽しいという結果でした。前回に比べ小学5年生が9%減少しています。

【子どもたちの実態】

子どもたちの読書に対する考え方や、日常の実態について調査をしました。

質問 1か月に何冊本を読みますか

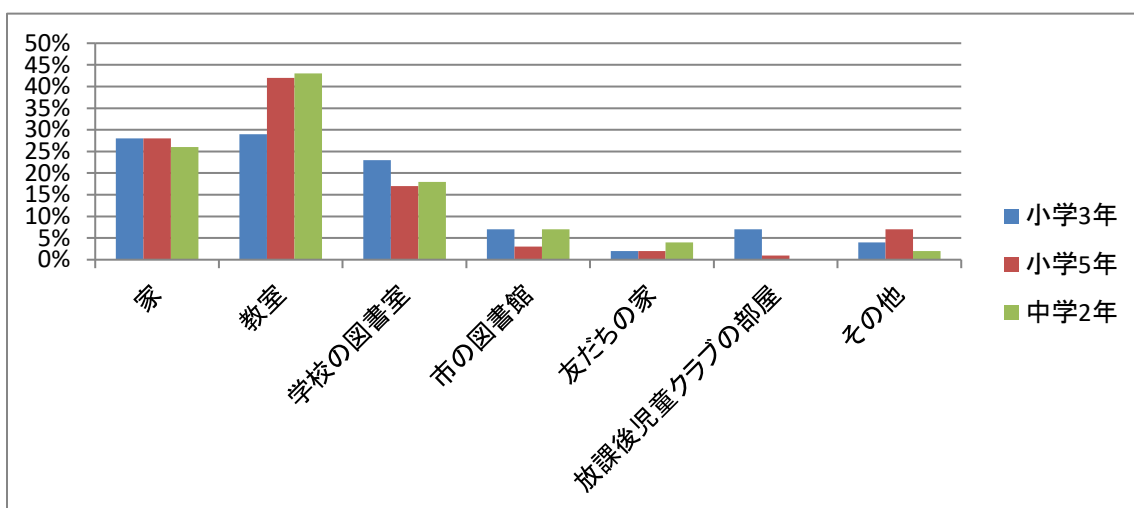


全体では、月1冊以上本を読む子どもが91%と全体の約9割を占めています。ほぼ、前回と同様です。

学年別では小学3年生が103人(95%)、小学5年生が65人(89%)、中学2年生は88人(85%)となっています。小学5年生が7%減少し、中学2年生が9%増加しています。小学3年生で10冊以上が35%で、前回と比べ17%減少しています。中学2年生では「月に1~2冊」が38人(37%)となっています。「月に0冊」が15人(14%)でした。前回に比べ10%減少しており、中学生の読書量が増加しています。

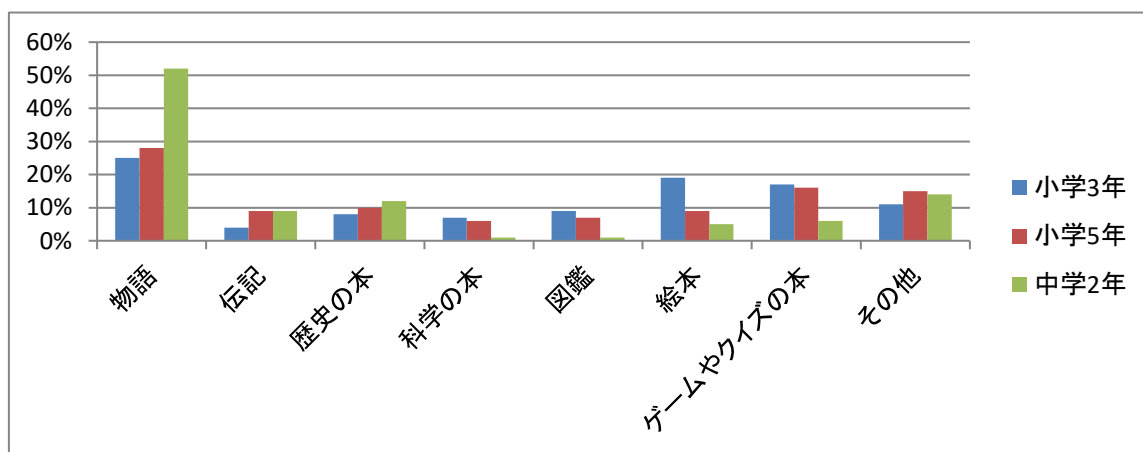
なお、子どもが本を読まない理由として、「ゲームやテレビが楽しい」が一番多く、高学年になるにつれて「塾や習い事」、「スポーツ教室」が増えてきます。「本を読むのがきらい」という回答も1割程度みられます。

質問 どこで本を読むことが多いですか(複数回答)



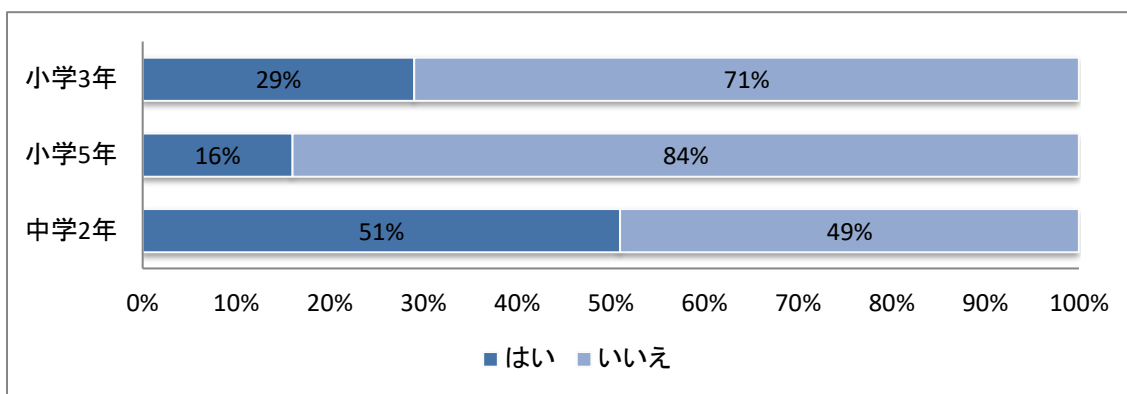
前回同様に全体的に家、教室、学校の図書室など身近な場所での利用が多く、市民図書館の利用は33人(7%)、放課後児童クラブは、16人(7%)となっています。市民図書館の利用が3%減少しています。

質問 あなたがよく読む本を教えてください(複数回答)



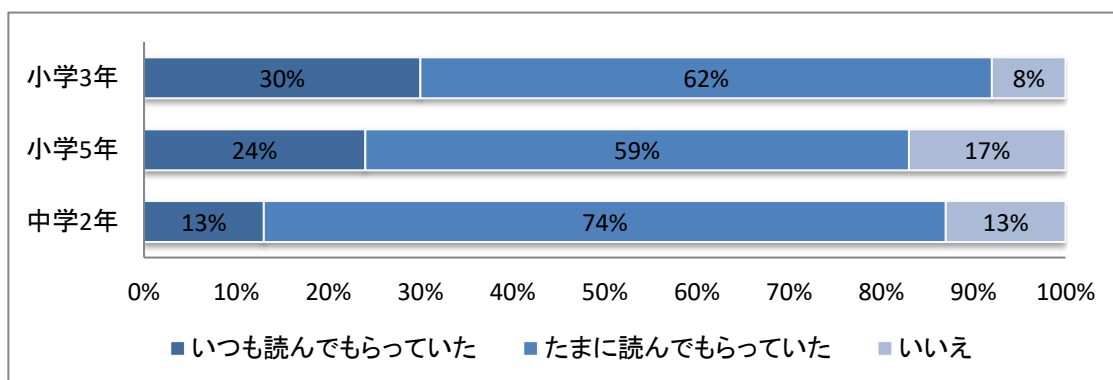
子どもたちが興味のある本は、全学年で「物語」でした。小学3年生では次に「絵本」「ゲームやクイズの本」に興味があるようです。小学5年生では「歴史の本」や「伝記」に興味を持ち出すようです。中学2年生では「物語」への興味が突出し、「図鑑」「科学」の本への興味が減少しています。

質問 インターネットやけいたい電話で物語やマンガなどを読んだことがありますか

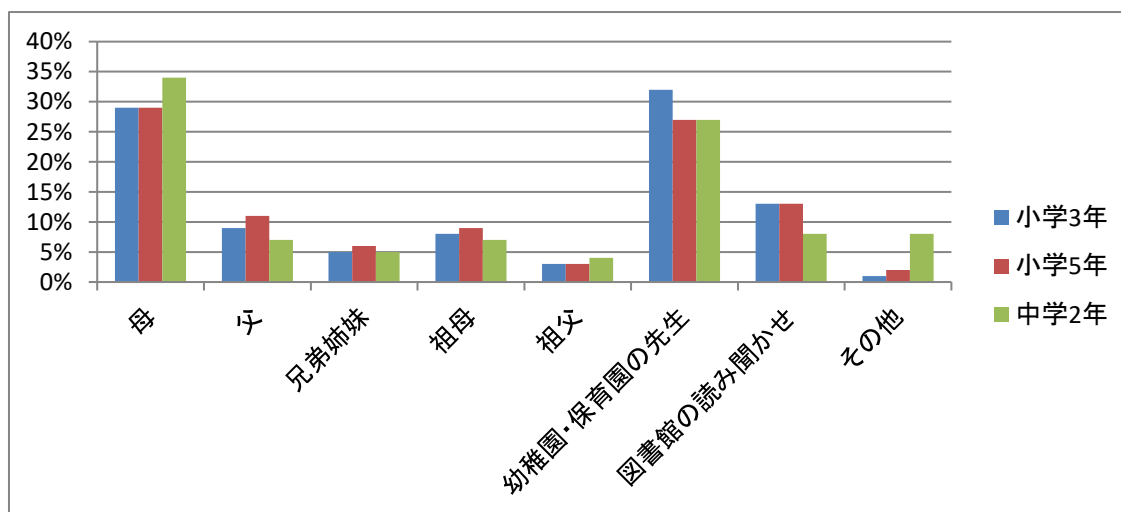


小学校3年生、小学5年生では利用が減少しています。中学2年生では前回とほぼ同様に約半数が、読んだことがあると回答しています。

質問 小さいとき(小学校入学前)本を読んでもらったことがありますか



質問 「読んでもらった」に○をつけた人に聞きます だれが本を読んでもらえましたか(複数回答)

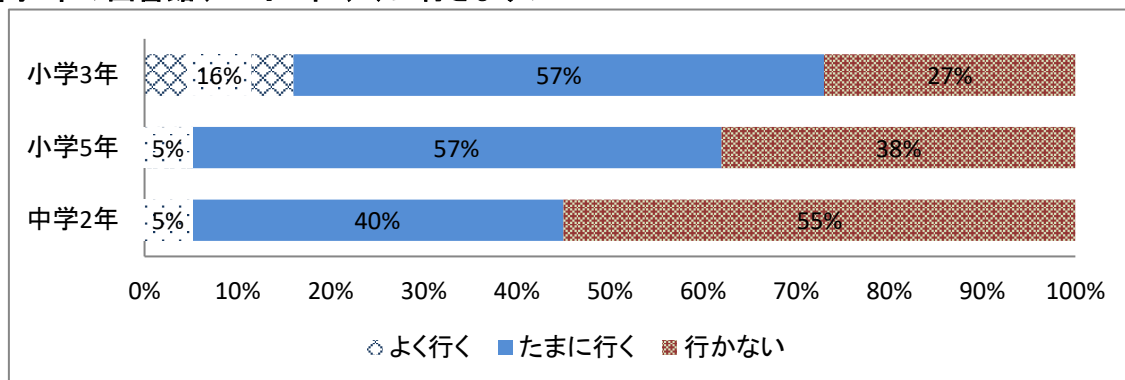


本を読んでもらっていたことがあると答えた人が81～92%でした。「母親」「幼稚園・保育園」の先生が約30%ずつで、前回とほぼ同様です。市民図書館の読み聞かせは13%で3%増加しています。

【子どもたちの施設利用】

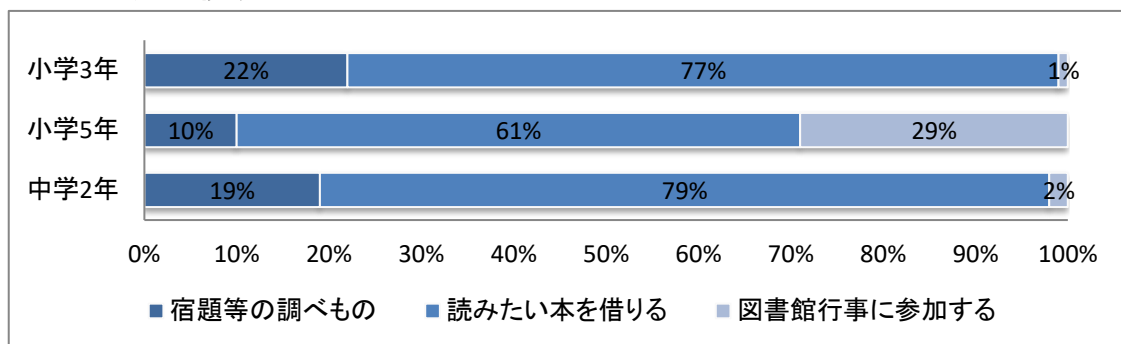
子どもたちの図書館への利用率の向上を図る上で、利用状況の現状を把握するため調査しました。

質問 市の図書館(三・小・牛・芦)に行きますか



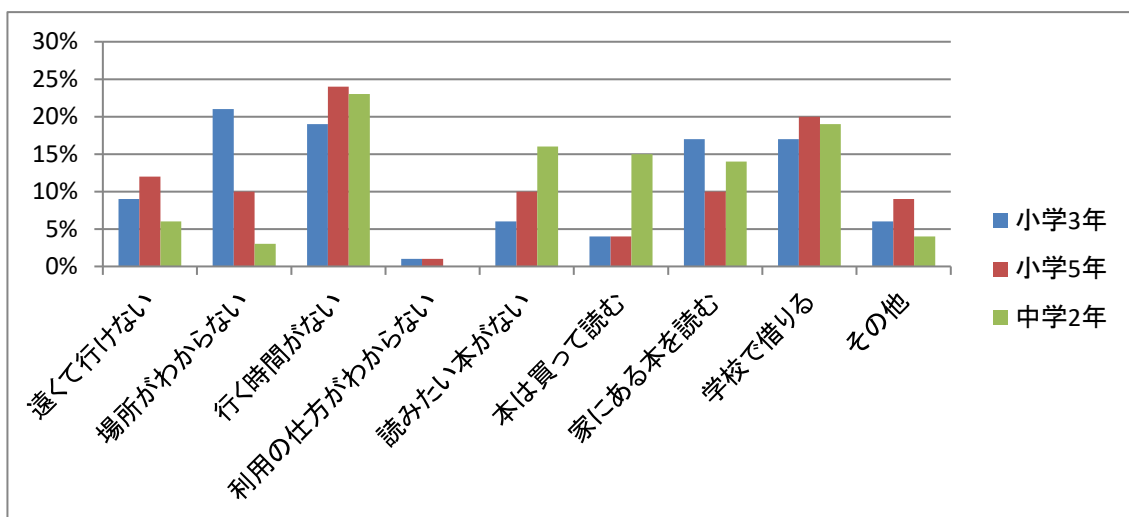
小学3年生が30人(27%)、小学5年生が36人(38%)、中学2年生が53人(55%)が市の図書館を利用しないという結果で、前回に比べ全学年で減少しています。

質問 市の図書館へ「よく行く」「たまに行く」に○をつけた人に聞きます どんなときにいきますか(複数回答)



小学5年生は「図書館行事への参加」、中学2年生は「本を借りるため」という生徒が増えています。

質問 市の図書館へ「行かない」に○をつけた人に聞きます 行かないのはなぜですか(複数回答)

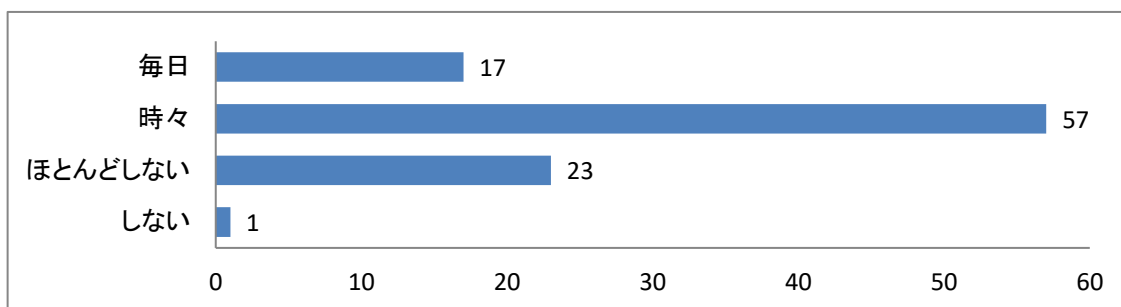


市民図書館に行かない理由として、「行く時間がない」「本は買って読む」「学校で借りる」の割合が高く、小学5年生・中学2年生は「読みたい本がない」がほぼ前回と同様です。「行く時間がない」と「本は買って読む」が前回に比べ増加しています。

2 保護者のアンケート結果

保護者は子どもの成長過程の中で、読書について何を必要と考えているのかを調査しました。

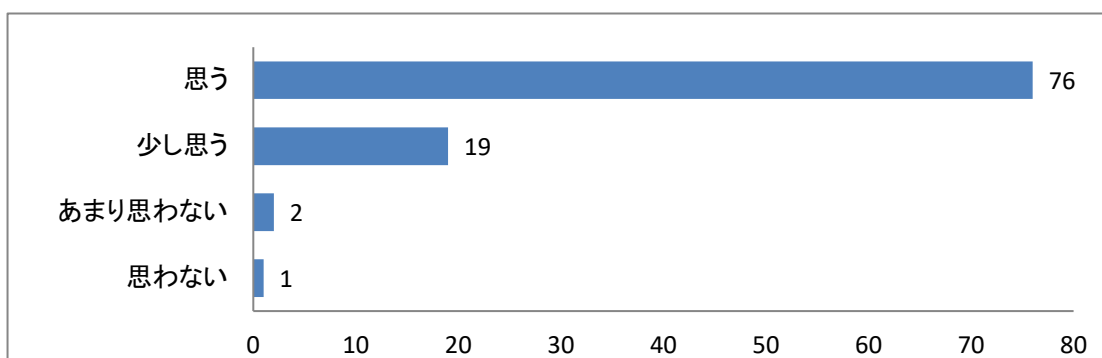
質問 家庭で読み聞かせなどをされていますか (回答数：98人)



(人数)

「毎日している」「時々している」と回答した保護者が74人(75%)です。前回に比べ10%減少しています。家庭での読み聞かせを行っていない保護者に理由を尋ねたところその理由は「時間がない」が85%で「必要ない」という回答もありました。

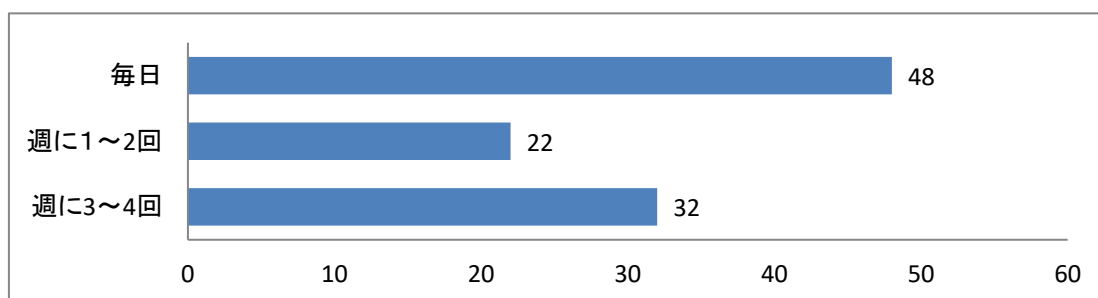
質問 読み聞かせは、子どもの成長に役に立つと思えますか (回答数：98人)



(人数)

読み聞かせは、子どもの成長に役に立つと考えている保護者は全体で76人(78%)で9%減少しています。「あまり思わない」「思わない」は3人(5%)でした。前回のアンケートでは、ありませんでした。

質問 保育園・幼稚園での読み聞かせはどのくらいの頻度でしてほしいですか (回答数：102人)

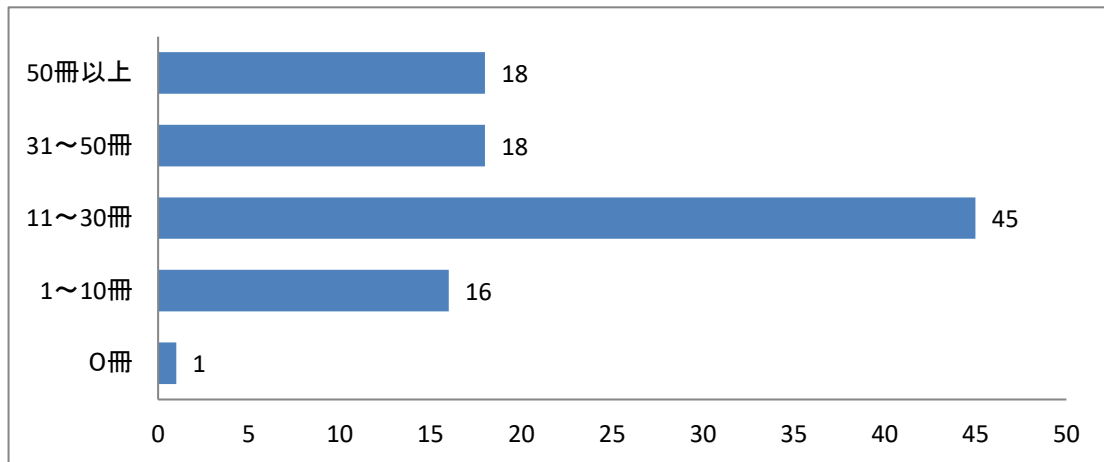


(人数)

保護者が保育園・幼稚園での読み聞かせをほしい頻度は、「毎日」が48人(47%)となっています。前回に比べ10%減少しています。

質問 家庭に絵本は、何冊くらいありますか

(回答数：98人)

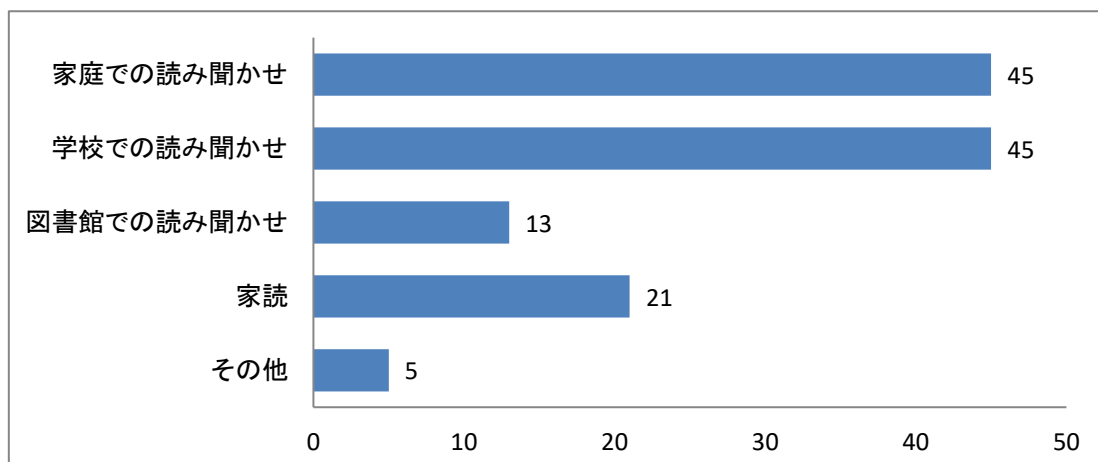


(人数)

ほとんどの家庭で絵本があるという結果でした。11～30冊の家庭が増えています。

質問 お子さんが小学生以降にも読書に親しむためにはどんなことをしたらいいと思いますか

(回答数：89人 複数回答)



(人数)

小学生以降にも読書に親しむために「家庭での読み聞かせ」が必要と考えている保護者が45人(35%)、「学校での読み聞かせ」が必要だと考えている保護者も同数の45人(35%)でした。「家読」は21人(16%)でした。「家庭での読み聞かせ」「家読」で半数を超えています、前回に比べ2%減少しています。「学校の読み聞かせ」「図書館」での読み聞かせは前回と変わっていません。

第4章 第三次小城市子どもの読書活動推進の基本方針

「第三次小城市子どもの読書活動推進計画」は国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、「第2次佐賀県子どもの読書活動推進計画」、「第2次小城市教育振興基本計画」、「小城市生涯学習振興基本計画」をもとに「第二次小城市子どもの読書活動推進計画」の取り組み状況とその成果の検証結果とアンケートの結果を踏まえ基本目標を策定しています。

1. 基本方針

「第2次小城市総合計画」の将来像である「誇郷幸輝（こきょうこうき）～みんなの笑顔が輝き幸せを感じるふるさと小城市～」の実現を目指す「第2次小城市教育振興基本計画」の基本目標は「第1次教育振興基本計画」を継承し「城創伝心」（じょうそうでんしん）としています。「城創伝心」とは小城の歴史と伝統を受け継ぎ文化を創造する豊かな心を育み後世へ伝える人づくりをめざしています。「第2次教育振興基本計画」ではさらに一人ひとりが生涯にわたって能動的に学び続け、未来に向けて高い志と理想を持って困難に立ち向かい克服していくための力である「生きる力」を育んでいくことを目的としています。

その実現のために、「第三次小城市子どもの読書活動推進計画」では、読書を通して楽しい時間とコミュニケーションを積み重ね、子ども達と家族の絆が深まり、地域の中で育まれていくことを目指します。

2. 計画の目指すもの

【基本目標】

《広い教養の育成と※家読（うちどく）の推進を行う読書環境づくり》

平成30年に見直された国の計画では子どもの読書活動の推進に当たっては、子どもや保護者に最も近い立場にある市町村の役割が重要視されています。市町村は、子どもの読書活動を推進するため、教育委員会のみならず市長部局と連携することに加え、学校、図書館、民間団体、民間企業といった関係者の連携・協力によって横断的な取り組みが行われるような体制の整備に努めるとされています。

また、令和元年の「第2次佐賀県子どもの読書活動推進計画」では子どもの読書環境の充実や子どもの発達段階（乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期）に応じた効果的な取り組みを、家庭・地域・学校と連携して実施することにより読書の関心を高め、読書習慣の形成を図るとされています。

そこで、「第三次小城市子どもの読書活動推進計画」では、子どもたちが読書への関心を高め、読書の習慣を身につけるために以下の5つの項目ごとに今後の取り組みを掲げています。

【施策の体系】

- (1) 家庭における子どもの読書活動の推進
- (2) 地域における子どもの読書活動の推進
- (3) 学校等における子どもの読書活動の推進
- (4) 民間団体の活動に対する支援
- (5) 普及啓発活動

3. 計画の期間

令和3年度から概ね5年間とします。なお、社会情勢や小城市内の読書環境を考慮しながら、必要に応じて見直しを行うこととします。

※家読（うちどく）とは

「家庭読書」の略語。家庭で本を読んでコミュニケーションを図り家族の絆を深めることを目的としています。

家読（うちどく）のやり方は家族で本を読んで話をするだけで、これといった決まりはありません。そのことで家族が同じ時間、同じ空間を共有することができ、楽しい時間とコミュニケーションを積み重ねていくことができます。

家読（うちどく）は読書推進に止まらず、本をコミュニケーションツールとして相互理解を深め、家族の絆がいつそう深まることを目指した取り組みです。

第5章 子どもの読書活動の推進のための具体的方策

1. 家庭における子どもの読書活動の推進

○現状と課題

ほとんどの保護者は読み聞かせは子どもの成長に必要であるという認識ですが、実際には25%が「時間がない」などの理由で行われていません。これは前回から10%増えています。保護者は66%が「本をあまり読まない」、「ほとんど読まない」と回答しています。家庭で本を読み聞かせるのは母親が多く、父親は少ない状況です。

子どもが本に親しむきっかけは家庭にあります。家庭での読書活動の意義をどのようにして広めていくのかという課題があります。読書に親しむためには、年齢に応じた「家庭での読み聞かせ」や「家読（うちどく）」を重点的に進めていく必要があります。

〈具体的な取組〉

- ①にこにこルーム（ブックスタート関連事業）の開催
- ②市民図書館の蔵書（読み聞かせ用）の充実
- ③日本や外国の絵本や創作絵本の充実
- ④親子で参加できる読み聞かせの実施
- ⑤家読（うちどく）の推進・普及

2. 地域における子どもの読書活動の推進

○現状と課題

前回同様、小・中学生では学年が上がるにつれて、市民図書館を利用しない子どもが増える傾向は変わりません。その理由は小学生では「場所がわからない」「時間がない」「読みたい本がない」の割合が高く、中学生でも「時間がない」「読みたい本がない」などの理由です。

さらに新型コロナウイルス感染症対策により、図書館利用者の読書活動を制限せざるを得ない状況となっています。

市民図書館利用促進の課題としては、第1に子どもたちが読みたい本をそろえるなどの蔵書の充実、第2に新型コロナウイルス感染症対策を図り、「利用者の安心、安全な環境を担保し、地域とつながる魅力的なイベント開催や情報提供が挙げられます。さらに、地域における子どもの読書活動の拠点として、障がいの有無にかかわらず、利用者が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受できるようにすることが課題です。

(1) 市民図書館における子ども読書活動の推進のための取組

〈具体的な取組〉

- ①子どもたちへの市民図書館の情報提供
- ②一日図書館職員体験
- ③幼稚園、保育園、認定こども園等や、小・中学校、児童センターでのおはなし会への司書の派遣
- ④にこにこルーム（ブックスタート関連事業）各町保健福祉センターへの司書の派遣
- ⑤学校図書館との連携・協力、団体貸出・合同研修会の開催
- ⑥市内のおはなしボランティアグループとの連携、魅力あるおはなし会の開催

(2) 子どもの読書活動推進のための市民図書館の機能強化

〈具体的な取組〉

- ①小学生や中学生対象の図書の実充
 - ②「家読（うちどく）おすすめの本」のリスト発行
 - ③「家読（うちどく）ブックコーナー」を設置し、読書奨励の取り組み
 - ④家読（うちどく）にかかわる作品募集やコンクールの実施
 - ⑤「佐賀うちどくフェスティバル in 小城」の開催（令和4年1月15日）
- ※佐賀うちどくフェスティバルとは
佐賀県における「家読（うちどく）」の啓発・普及を目的として発足された「佐賀うちどくネットワーク」が、うちどくの周知と研修を目的として開催する大会行事。

3. 学校等における子どもの読書活動の推進

○現状と課題

小学生では読書が好きという回答が85%で中学生では71%と大きく減少します。本を読まないという小学生は30%がゲームやテレビが楽しいと回答しています。中学生では「部活」や「読みたい本がない」という回答があります。

また、市内には、令和2年度、18の放課後児童クラブがあり、小学1年～6年生までが利用しています。図書コーナーはありますが、独自の蔵書がないクラブがあります。全てのクラブで市民図書館の団体貸出を利用されています。読み聞かせは必要であると、ほとんどのクラブで認識されていますが、時間がないなどの理由で半数のクラブで行われていません。

子どもたちが読みたい本を増やすなど小・中学校図書館の蔵書の充実を図ることや、支援員や、ボランティアグループ、学校司書との連携を図ることによる、読書環境の整備・充実が課題となります。

(1) 幼稚園・保育園等における子どもの読書活動の推進

〈具体的な取組〉

- ①子どもが本に興味を持ち、親しむことができる環境の整備・充実
- ②おはなしボランティアグループによる読み聞かせ

(2) 放課後児童クラブにおける子どもの読書活動の推進

〈具体的な取組み〉

- ① 市民図書館での団体貸出の実施
- ②おはなしボランティアグループとの連携

(3) 小学校・中学校における子どもの読書活動の推進

〈具体的な取組〉

- ①学校図書室の所蔵図書の実、市民図書館とのネットワークによる相互貸借の実施
- ②学校司書の能力の向上 研修会・講習会への参加

4. 民間団体の活動に対する支援

○現状と課題

平成25年4月に「小城市おはなし協議会」が設立されました。ボランティアグループ(13団体)が活発に活動されていますが、どの団体も会員数が減少しており会員の養成や確保が課題です。

(1) おはなしボランティアグループの支援・連携

〈具体的な取組〉

- ①おはなし会開催などの連携
- ②交流会を開催
- ③おはなしボランティアグループ相互の情報交換や研修
- ④会員の養成や確保のための読み聞かせなどの研修会の開催

5. 普及啓発活動

○現状と課題

「子どもの読書の日」にあわせ子どもに関する絵本の展示や大きなおはなし会を実施しています。また、スタンプラリーなどの行事を開催し読書推進につながるよう取り組んでいます。

市民図書館のホームページや市報への図書館情報の掲載、学校などのへのチラシの配布で各種情報を提供していますが、効果的な利用者増につな

がっていないため、市民図書館のホームページや市報等により、最新・正確な情報を利用者に提供していくことが課題となります。

(1) 子どもの読書の日

〈具体的な取組〉

- ①絵本の展示、おはなし会の実施
- 「子どもの読書の日」(4月23日)

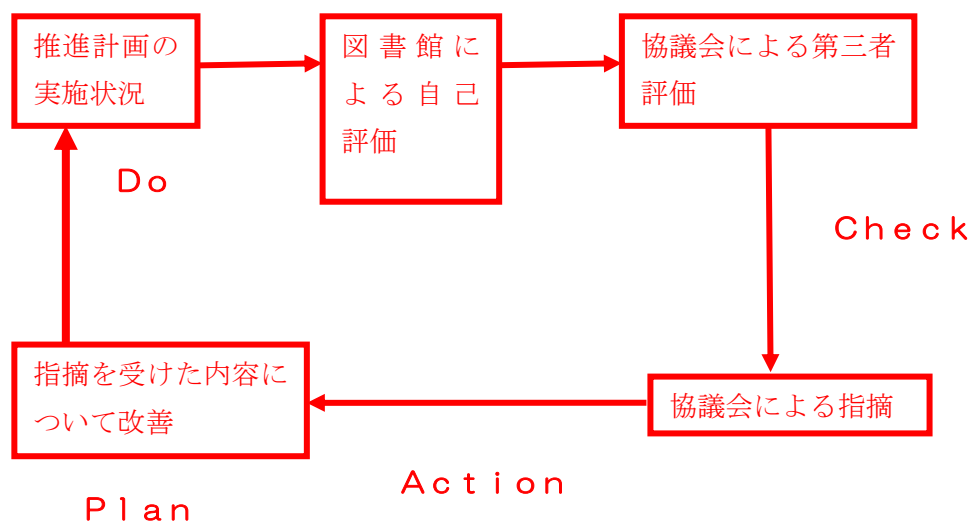
(2) 各種情報の収集・提供

〈具体的な取組〉

- ①市民図書館のホームページの充実
- ②市報での情報提供
- ③市民図書館イベント・新刊情報などのチラシの配布
- ④家読(うちどく)の取り組みの広報

第6章 推進計画の進捗管理

毎年、小城市民図書館協議会において、また、PDCAサイクルに基づく事務事業評価や教育委員会第三者評価委員会の結果等に基づき、本計画の各施策の取り組みの進捗管理に努めていきます。



※PDCAサイクル

PDCAサイクルとは、計画（Plan）⇒実行（Do）⇒点検・評価（Check）⇒改善（Action）のサイクルで進捗管理を行う流れのことです。

小城市教育委員会

小城市民図書館

T E L 0952-72-4946

F A X 0952-72-1828

E - M A I L tosyokan-mikatsuki@city.ogi.lg.jp